

B I Mの実践的活用法学ぶ

日大生産工学部

建設DX特別講義 積女ASSALら解説



日本大学生産工学部は19日、千葉県習志野市の日大津田沼キャンパスでBIM教育普及機構（BIMEO、佐野吉彦理事長）と連携して、建設DX特別講義を行った。写真。「建築コンピュータ演習」の一環。日大生産工学部2年生を中心に約200人が参加した。教育機関のBIM教育課程と社会人教育の連携講義とし

て、日本建築積算協会（浦江真人会長）の女子会である積女ASSALの委員が、積算の基礎をカレージャーに例えて講義した。

協栄産業（東京都品川区、平澤潤社長）、Nexced（東京都台東区、吉田博幸代表取締役兼CEO〈最高経営責任者〉）、FMシステム（東京都文京区、柴田英昭社長）が設計、施工、維持・補修各段階でのBIM活用方法を説明。それぞれが手掛けるBIMソフトも紹介した。

同演習の森谷靖彦講師（BIMEO理事）は「今回の講義で学生が建設DXやBIMに興味を持ち、業界をけん引する人材になってほしい」と語った。日大で社会基盤分野の授業を受け持つ鎌田貴久講師は「日大は企業と連携して人材育成に注力している。本講義は学生がBIMの実践的活用法に触れる好機となった」と話した。